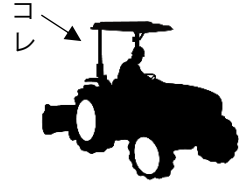


ピシッと起立 安全フレーム



「キリンの長い首は何のためにあるの？」

「どうしてお猿さんのおしりは赤いの？」

その姿かたちを見て、何かしら疑問をもつ時期はあったでしょうか。

農業機械の研修で、機械の構造について説明していると、

「何のためにあるのか知らなかった！」と農業者がビックリするものがあります。

その最たる例が、トラクタの安全フレームです。

その姿かたちを見て、気にはなっても、それ以上の追求まで至らない存在のようです。

安全フレームは、トラクタが転倒しても、運転者の身を守ってくれるものです。

これは、トラクタが横転や反転したときに、

トラクタ本体とフレームによって生じるスペースに運転者を留まらせて、

トラクタの下敷きになることを防ぐためです。

ただし、これはシートベルトをしているときに限られます。

安全フレームとシートベルトは、セットでないと意味がありません。

実際に、安全フレームは高い救命効果が認められており、死亡事故を防いでくれます(*1)。

たまに、可倒式の安全フレームを倒した状態のまま

公道を走るトラクタを見かけますが、とてももったいないように思います。

車庫入れやハウス作業などがあるからフレームを倒しているのかもしれませんが、

フレームはピシッと起立していないと効果を発揮できません。

そして、なぜ、安全フレームの重要性がこれだけ強調されるのかというと、

その根底に、トラクタの構造的な倒れやすさがあるためです。

安全対策というと、「事故を起こさないように」というリスクゼロに目が行きがちです。

しかし、トラクタの安全フレームのように、

「事故が起きたときに重傷化させない」というリスクベースの対策も等しく重要です。

さて、春が始まりました。背中をピシッと、作業といきましょうか。

参考資料：(*1) 革新工学センター調べ